

日本保育学会 中国・四国地区ブロック研修集会

ウイズ・コロナ/VUCA時代の

子どものウェルビーイングと非認知能力

日時：令和4年3月13日（日）13時00分～15時30分

- ・ 方法：ZOOM ウェビナーを用いたオンライン方式・YouTube での限定公開配信
- ・ 参加：無料 日本保育学会会員の他、保育・幼児教育に関係のある先生方、一般の方々のご参加を歓迎いたします。
- ・ 申込方法：右の二次元コードもしくは下の URL にアクセスし、申込フォームでお申込みください。

申込フォーム URL：<https://forms.gle/X3ZBT2MPdGj2jrcz7>

- ・ 申込期限：令和4年3月1日（火）まで

定員の先着 500 名はウェビナーでご参加いただけます。

定員に達した後のお申込みには YouTube の配信をご案内します。



新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界中の国の人たちに大きな影響を及ぼしました。わたしたちの暮らしは一変し、保育の中でも、日々感染予防対策を徹底したり、「新しい生活様式」を取り入れたりしながら、これまでの保育のあり方や保育の本質まで見つめなおす機会になりました。

コロナ禍以前からも、自然災害、環境破壊、AI 技術の進展など急激に社会が変化し、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の時代になったといわれていました。これからの幼児教育は、認知能力と非認知能力をバランスよくとらえ、予測できないことやさまざまな変化に即応できるしなやかな力を育てることが検討されています。

Education 2030 プロジェクトでは、個人のウェルビーイングと集団のウェルビーイングがキーワードとなっています。2021年7月から始まった幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会においても、「全ての幼児のウェルビーイングを高めるカリキュラムの実現」などが審議されています。

そこで、この研修集会では、ウイズ・コロナ時代、VUCA 時代の保育を見据えて、いまあらためて、子どもにとってのウェルビーイングや非認知能力とは何か、子どものウェルビーイングや非認知能力をどのように高めることができるのか、わたしたちのウェルビーイングとは何か、みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

話題提供者

帆足 比呂（岡山大学教育学部附属幼稚園）

木村 直子（鳴門教育大学大学院学校教育研究科）

中山 芳一（岡山大学全学教育・学生支援機構）

佐々木 晃（鳴門教育大学大学附属幼稚園・日本保育学会理事）

指定討論者

岡林 律子（高知県教育委員会事務局幼保支援課）

司会・企画

西山 修（岡山大学学術研究院教育学域・日本保育学会理事）

湯地 宏樹（鳴門教育大学大学院学校教育研究科）

